

1

特集 妊娠糖尿病の最先端

妊娠糖尿病の頻度

平松祐司

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 産科婦人科学 教授

2010年、妊娠糖尿病(gestational diabetes mellitus；GDM)の診断基準が26年ぶりに大きく改訂され、同年7月より使用されている。今回の改訂で、GDM診断のための75 g OGTTのカットオフ値が変更され、また3点測定において1点以上が異常の場合にGDMと診断されるようになったため、その頻度が増加することが予測される。

また、今回の改訂では、「妊娠時に診断された明らかな糖尿病 (overt diabetes in pregnancy；overt DM)」と「ハイリスクGDM」の概念が取り入れられた。これらは将来糖尿病に移行する可能性が高いため、厳重に管理・フォローアップする必要がある。本稿では、新基準の採用によりGDMの頻度がどのように変化したかについて解説する。

日本における糖尿病人口の推移

耐糖能異常に対する認識を高め、一貫した啓発活動を行っていくためにも、日本における糖尿病人口の推移を知っておく必要がある。

厚生労働省発表の『平成18年 国民健康・栄養調査結果の概要』¹⁾によると、「糖尿病が強く疑われる人」は約820万人、「糖尿病の可能性が否定できない人」は約1050万人で、合計すると約1870万人と報告された。平成14年の調査と比較しても「糖尿病が強く疑われる人」は約80万人、「糖尿病の可能性が否定できない人」は約170万人増加しており、その後の動向が注目されていた。

このたび報告された、厚生労働省の『平成23年 国民健康・栄養調査報告』²⁾では、「糖尿病が強く疑われる人」とその可能性を否定できない「予備群」が合わせて27.1%と推計され、国民の4人に1人以上が糖尿病かその予備群であることが明らかになった。この調査は2011年に実施された国民生活基礎調査から無作為に抽出した

全国の8247人を対象に行われ、3509人の血液検査結果などから全国民の健康状態を推計している。それによると、糖尿病が「強く疑われる人」は男性15.7%、女性7.6%、「予備群」は男性17.3%、女性15.4%と報告されている。合わせて男性の33.0%、女性の23.0%が糖尿病かその予備群であることが示された(図1)。生殖年齢にある40歳未満の女性についてみると、糖尿病が「強く疑われる人」は1.3%、「予備群」は2.8%になり、合計で4.1%を占める。

また、厚生労働省は3年に1度、全国で「患者調査」³⁾も実施している。2011年の調査は、2011年10月の3日間、入院・外来患者約233万5000人の情報を集めて実施された。その結果をみると、主な疾患の総患者数は、「高血圧性疾患」906万7000人、「糖尿病」270万人、「高脂血症」188万6000人、「心疾患(高血圧性のものを除く)」161万2000人、「悪性新生物」152万6000人、「脳血管疾患」123万5000人となっている。前回調査(2008年)に比べるとアルツハイマー病の増加が目立ち、総患者数は36万6000人(12万6000人増)と推計された。それ以外の疾患では、「高血圧性疾患」が110万人増、「高脂血症」が

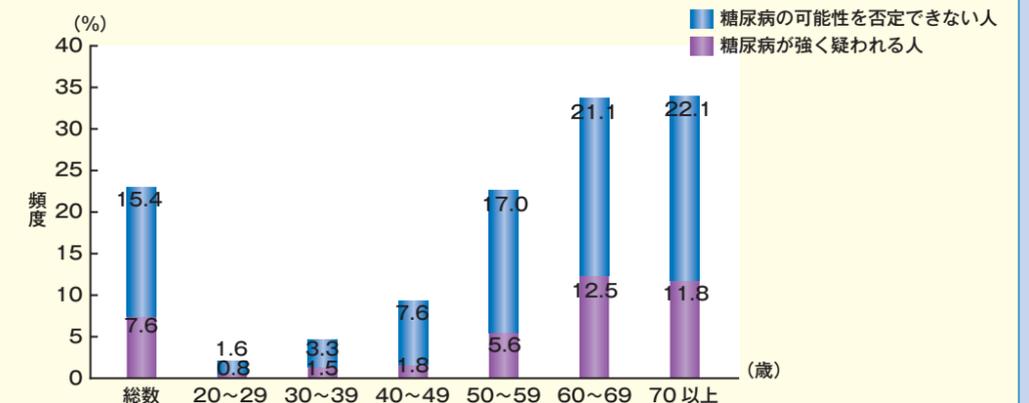


図1 「糖尿病が強く疑われる人」および「糖尿病の可能性を否定できない人」(女性)の状況(文献2より作成)

45万3000人増、「悪性新生物」が8万人増となっている。「糖尿病」は32万9000人増の270万人と、相変わらず増加の一途を辿っている。

日本におけるGDM

糖尿病人口が年々増加していることを考えると、GDM人口も次第に増加していることが推定される。日本のGDMの頻度については系統的な調査・研究がなされていないためその詳細は不明だが、このたびGDMの新診断基準⁴⁾が採用されたことにより、その頻度は大きく増加したと考えられる。

GDMの診断基準の変更

1984年に日本産科婦人科学会周産期委員会が提案した診断基準⁵⁾では、GDMは「妊娠中に発症もしくははじめて発見された耐糖能低下」と定義された。本基準を日本産科婦人科学会・日本糖尿病学会も採用し、長年にわたり使用してきた。この旧診断基準では、75 g OGTTを施行し、①負荷前血糖値 ≥ 100 mg/dl、②1時間値 ≥ 180 mg/dl、③2時間値 ≥ 200 mg/dlのうち、2点以上異常の場合にGDMと診断していた。

2010年、26年ぶりに診断基準の大改訂が行われた。新診断基準では、GDMは「妊娠中にはじめて発見または発症した、糖尿病に至っていない糖代謝異常である。妊娠時に診断された明らかな糖尿病 (overt diabetes in pregnancy；overt DM) は含めない」と定義⁴⁾され、従来GDMと診断されていたものが、GDMとovert DMに分離されることになった。したがって、現在では妊娠中に取り扱う耐糖能異常は、①妊娠前から糖尿病のわかっているpre-existing diabetes mellitus (preGDM)、②GDM、③妊娠時に発見された明らかな糖尿病 (overt DM)の3つになる。

新しい診断基準を表1に示す。この診断基準のもうひとつの大きな変更点は、75 g OGTTのカットオフ値が「負荷前血糖値 ≥ 92 mg/dl、1時間値 ≥ 180 mg/dl、2時間値 ≥ 153 mg/dl」に変更になり、しかも1点以上異常であればGDMと診断されるようになったことである。

GDMの頻度

全国22施設でGDMスクリーニング法を検討したJAGS trial⁶⁾では、2839人の妊婦を対象に4070回の75 g OGTTを施行し、最もよいスクリーニング法を検討した。本研究ではGDMスクリーニングが陽性であれ陰性であれ全例に75 g OGTTを施行した。その結果は表2のとおりであり、全妊婦に75 g OGTTを施行した場合、旧診